

稲敷市 “持続可能な地域づくり” ニュース <vol.5>

7月15日（金）、第2回「稲敷市持続可能な地域づくりプラン策定委員会」が開催されました。今回の策定委員会では、6月10日（金）及び7月4日（月）に開催された第2回・第3回「いなしきを未来につなぐ地域づくりワークショップ」で話し合われたことが各部会代表者より発表されるとともに、これまでのワークショップ等での話し合いをもとに取りまとめた「稲敷市持続可能な地域づくりプラン」の基本方針と事業の案について意見交換がなされました。

大澤委員長の絶妙な進行により、各部会代表者から活発に意見や質問が出され、住環境（空き家対策等に関すること）、公共交通（通学バスや自動運転等に関すること）、太陽光パネル（景観や固定資産税収入に関すること）など、幅広い分野にわたり議論を行うことができました。市民目線の貴重な意見を聴くことができ、充実した時間でした。



また、今回の策定委員会では、9月定例議会に「稲敷市過疎地域持続的発展計画」の変更を提出予定のため、ワークショップ等で出された事業アイデアを反映させた素案についても意見交換をすることができました。



ワークショップ、策定委員会ともに折り返しを迎えたことから、地域づくりプランは徐々にまとめの作業に入っております。ゼロからのスタートで作上げてきた地域づくりプランの全容が見えてきた状況です。

今後は、9月下旬を目途に第4回ワークショップを開催する予定です。少し間が空いてしましますが、その間メッセージアプリ「Slack（スラック）」での話し合いや、地区部会を超えた全体での交流が計画されているようで、今後の動きも楽しみです。

「稲敷市持続可能な地域づくりプラン」基本方針(案)

稲敷=ツナガル=まちづくり

=魅力的で元気あふれる私たちの“ふるさと”稲敷の再生=
 少子高齢化や人口減少が著しい稲敷市。ガンバってまちづくりに取り組んでいるけど、
 もう一つ、もう少し、諦めずに工夫や情熱を加えるアイデア・要素が必要では…
 そのためには、市民・企業・行政、ヒトだけでなく、モノやサービス、システムや情報など、
 いろいろな“ツナガル”で、未来へ“ツナガル”まちづくりが実現できるはず…

日々の暮らしの中で日常生活が送れる＝“拠点・ネットワークづくり”でツナガルまちづくり＝

公共交通が脆弱で居住地が分散する稲敷では、人口減少や高齢化の中でも不便なく日常生活が送れる環境を創出することが大切です。そのため、必要な機能をコンパクトに集積する拠点を形成するとともに、地域内や地域間の公共交通によるネットワーク化で、ツナガルまちづくりを実現します。

キーワード：利便性、住環境、安全・安心、交通ネットワークなど

自分らしく暮らす・稲敷らしい産業を萌芽する＝“新たな活力づくり”でツナガルまちづくり＝

地域の経済活動を確保し、稲敷に住み働く環境を維持するとともに、新たな地域の活力を創出し、新たな活力を生み出し続けることが大切です。様々な人や情報等の交流を促進し、新しい働き方や暮らし方に対応した産業や働き方の萌芽を育てることで、ツナガルまちづくりを実現します。

キーワード：産業維持、民間企業との連携、交流・環境等の新たな分野の拡大など

地域との絆から地域を好きになる＝“地域の仲間づくり”でツナガルまちづくり＝

身近な趣味やスポーツ、さらには地域の歴史文化や自然環境等の地域資源を通じ、地域活動や地域資源に触れる機会を創出するとともに、地域交流や世代間交流を通じて、全ての世代が地域に親しむ意識を醸成するための仲間づくりを促進することで、ツナガルまちづくりを実現します。

キーワード：文化継承・地域活動、地域資源の発掘・アイデンティティの醸成など